

戴仲培曰、複姓多北人而中國望族不可以義通者、豈因所居而增諸葛則諸縣之葛、申屠則屠原之申、母胡當作母、則母丘之胡、閻丘之閻、所謂同門而異戶也。醉凌氏曰、里氏之居相城者爲相里、統此類甚多、吾國藤氏之望極多、其出伊勢者曰伊藤、其出加賀者曰賀藤、適與諸葛相里同義、亦何以複姓爲嫌、

〔貞文雜記人名〕足利殿時代の御番帳に、土岐厚駿河守略、申新田大嶋左衛門佐など、云名あり、是等は同氏多き内分れ出たる家々にて、各外に氏を附て、本の氏と今の氏を二ツ重ねたる也。
中
 又佐々木大原備中判官と云もあり、佐々木大原は氏を二ツ重ねたる也。
 〔異本曾我物語〕助親伊、心ひそかに思ふむねありければ兄繼のため、忠あるよしにて、後家にも子子金石助繼にも勝れて孝養精誠をぞ盡しける。
略、申金石にも心やすき乳母をつけてやしなひつゝ、遺言にたがはずして、十三年と申し、には元服させ、宇佐美宮藤次郎助經と名乗らせ、娘の万劫にめあはせて、次のとしの秋ひき具して上洛す。

〔太平記十三〕龍馬進奏事

其比、佐々木鹽治判官高貞ガ許ヨリ、龍馬也トテ、月毛ナル馬ノ三寸計ナルヲ引進ス、

〔太平記十四〕將軍入洛事附親光討死事

結城大田判官親光ハ、此君ニ貳フタ、ロナキ者也ト深ク憑マレ、進ラセテ、朝恩ニ誇ル事傍二人ナキガ如也。ケレバ略下

〔武家儀式〕御評定著座次第

延文三年十二月三日

佐々木信濃五郎左衛門尉
佐々木岩山六郎左衛門尉